

令和3年度 合唱コンクール 開会の言葉

R3.11.19

11月も半ばを過ぎ、立山山麓の山々は、錦織りなす1年で最も美しい季節を迎えています。

4月、満開の桜の下^{もと}で出会った新しい仲間と、今日までたくさんの学びと体験を積み重ねてきました。前半は、新型コロナの感染予防のために、大きな行事は一つも実施できませんでした。10月に入ってから練習を開始した体育大会は、練習も本番も熱く盛り上がりましたね。やる気あふれる素敵な3年生のリードで繰り広げた、パワー全開の競技と応援、そして全校生徒が一つになったよさこいソーラン。あの力強い演技と、やり切った後の輝く笑顔は、今も忘れることができません。

そして、今日は、それぞれの「クラス」で築き上げてきた団結の力を、思う存分に発揮する日です。「合唱づくりは学級づくり」と言われます。歌声に、集団としてのクラスの成長がはっきりと表れるからです。間違えても音を外してもだいじょうぶ。我がクラスは安心して思いきり声が出せる。そんな仲間同士が「信頼の絆」で結ばれたクラスの合唱には、上手・下手をはるかに超えた感動があります。仲間を思う熱い心が、二度とは来ない今を大切にしたいという純粋な思いが、次第に重なり一つになり、大きな波動となって聴く人の心に迫ってくるからです。そんな合唱に出会ったときは、自然と涙が溢れてきます。これを芸術と言わずして何を芸術というのでしょうか。

今日、みなさんはどんな合唱を聞かせてくれますか。体育大会のときのような大きな感動に、再び出会わせてくれるのでしょうか。今日はそのことを楽しみにしています。そして、すべてのクラスのすべての雄中生が、今年最高に光り輝くことを期待して、開会の言葉とします。